



# 令和6年度事業概況

KENSHIN ANNUAL REPORT 2025

## 1. 経営環境

わが国経済は、雇用情勢や所得環境の改善を背景として、個人消費や設備投資に持ち直しの動きが見られるなど、緩やかな回復基調にあります。

一方で、当組合の主な取引先である中小企業・小規模事業者の皆さまを取り巻く経営環境は、物価上昇による収益への影響が継続していることに加え、米国関税措置等による景気の下振れリスクなど、先行きも不透明な状況です。また、個人のお客さまにおいても、物価上昇による家計への影響が懸念されます。

金融機関を取り巻く環境を見ると、日銀の金融政策変更により金利上昇局面が続いています。預金金利の上昇により資金調達費用が増加しており、融資先の状況に応じた適切な金利設定や、有価証券ポートフォリオの入替を適時適切に実施することが求められます。また、お客さまへの資金繰り支援のみならず、ニーズに応じた厚みのある本業支援に取り組む必要があります。

地域経済発展のために、地域を支えるお客さまとの関係をより一層強化し、お客さま・職員・地域が共に成長していくビジネスモデルの確立を目指します。

## 2. 事業概況

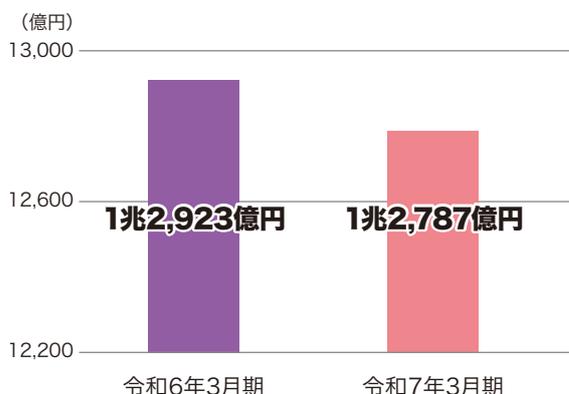
令和6年度は第10次中期経営計画（計画期間：3年）の最終年にあたり、原材料価格や人件費上昇の影響を受けている取引先の伴走支援に取り組んだことに加え、金利上昇による影響を直接訪問して確認し、円滑な資金繰りを支援しました。また、JR東日本水戸支社と連携した販路拡大支援や、外部専門機関と連携したIT・DX支援など、取引先の本業支援に尽力しました。

令和7年度から、新しい中期経営計画が始ま

りました。『お客さまと地域の持続的な成長に貢献する金融機関』を経営ビジョンと位置づけ、これまで以上にお客さまの資金繰り・本業支援に取り組んでまいります。また、マネロン・テロ資金供与対策に関する態勢整備や、サイバーセキュリティ管理態勢の強化に取り組み、強固な金融システムを構築して当組合の健全性や収益性を維持することで、地域金融の安定、ひいては地域経済の活性化を図ってまいります。

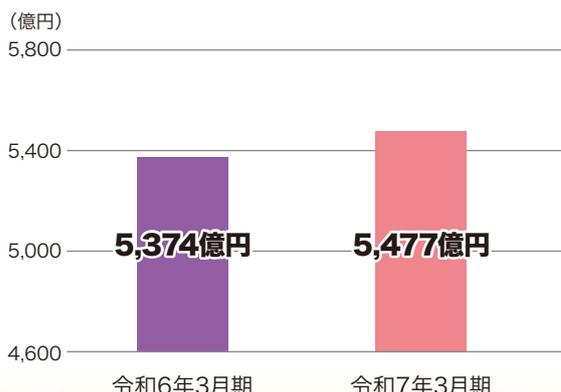
## 預金

預金は、茨城県内の幅広いお客さまからお預けいただき、1兆2,787億円となりました。地方公共団体向けの預金を除くと、法人預金の増加により前期比83億円増加しました。



## 貸出金

貸出金は、物価や人件費上昇の影響を受けているお客さまの資金繰り改善に取り組んだことにより、前期比103億円増加し、5,477億円となりました。





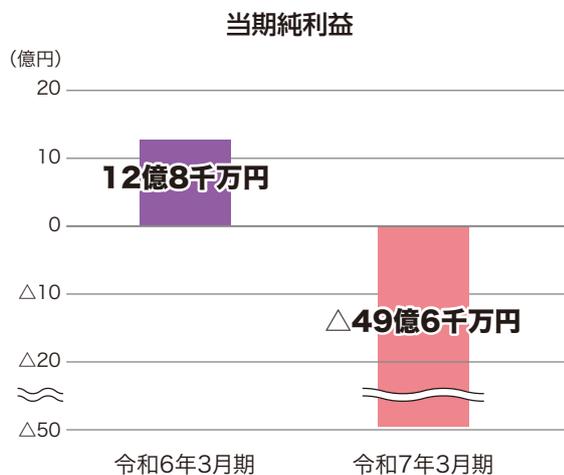
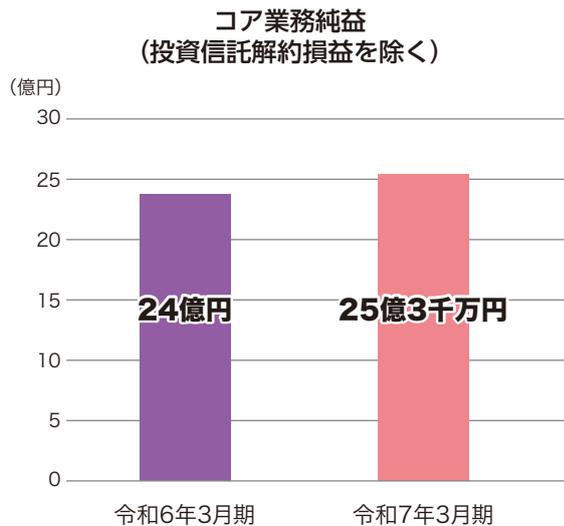
# 令和6年度事業概況

KENSHIN ANNUAL REPORT 2025

## 損益

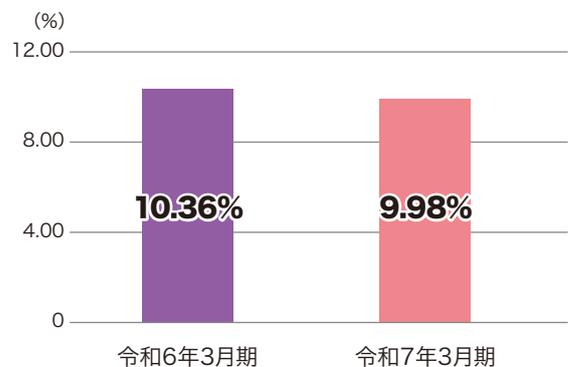
コア業務純益（本業による利益から、債券の売却損益など一時的な要因を除いたもの）は、資金運用収益が増加したことや、継続的に実施している経費削減に向けた取組みなどにより、前期比1億3千万円増加し、25億3千万円となりました。

また、金利上昇など市場環境の変化により有価証券の再投資による利回り向上が見込める状況となったため、将来の収益力強化に向けた有価証券の大幅な入替を行ったことにより、一時的に損失が発生しました。その結果、当期純利益は△49億6千万円となりました。



## 自己資本比率

自己資本比率は、前期比0.38ポイント低下の9.98%となりました。健全な金融機関としての自己資本比率は4%以上（国内基準）を維持することが求められていますが、**けんしん**では国際基準の8%も上回っており、引き続き高い水準を維持しています。



## 金融再生法開示債権

金融再生法開示債権額については、経営改善や事業再生支援を実施したことなどにより、前期比20億円減少の176億円となりました。

そうした効果により、金融再生法開示債権比率は3.21%と前期比0.44ポイントの改善となっています。

**けんしん**は、貸出資産の健全化に向け、不良債権の発生防止などに努め、不良債権比率の低下に取り組んでいます。

